

七所神社例大祭に合わせて、学区の秋祭りが行われました。明円町、芝町、赤坪町、砂口町、白雲町の5町内ごとに、公園に獅子頭を祀る祭壇と、みこし、猩々(しょうじょう)様を飾り、おみこしの町内巡回(引きみこし)を行いました。子ども縁日やお菓子すくいなど、子どもたちが楽しめるイベントを行っている町内もありました。夜は提灯行列で、町内を回り、七所神社へ奉納に出かける町内もあるとのことでした。伝統を次世代につなぐ、大切な行事であると感じました。



▲ 七所神社 本殿は登録有形文化財

熱田神楽の奉納



▲赤坪町では、熱田神楽保存会の方々が神楽の奉納をしました。保存会は、文化の伝承として小学生に熱田神楽の指導をしています。この日は子どもたちが新調したばかりの太鼓の奉納を担いました。

獅子頭の祭壇



▲各町内会ごとに祭壇が設置され、獅子頭が祀られていました。お神酒、水、塩、お米、餅、果物、野菜、乾物、菓子などのお供えがされ、訪れた方はみなさんお参りをされていました。

猩々と子どもたち



▲子どもたちの守り神である猩々(しょうじょう)。大人が中に入り、子どもたちを追いかけ、病気を追い払う習わしです。南区でも、猩々があるのは七所神社の周囲だけとのことでした。

参加者の声

- ・今日は喫茶店のモーニングの後に声を掛けてもらって来ました。子どもがいないとお祭りに来ようとは思わないけど、誘ってもらってよかった。楽しいですね。
- ・小さい子たちと一緒に猩々さんを追いかけていたい気持ちはあるけど、もう5年生なのでちょっと恥ずかしいから見てるだけ。でもお祭りは楽しい。みこしも引いたよ。

主催者の声

- ・以前は子どもの数も多かったけど、今はおみこしを引くのも人数が少なくて大変です。高学年になると部活優先で祭りにはこないですね。伝統行事は大切にしたいけれど、いつまでできるかわからないです。
- ・熱田神楽も毎月1回小学生に指導しているが、伝統の継承も少子化では難しい。